

## 編集室から

毎号ニュースの表紙写真には前年同月にお訪ねした各地の一こまを使っています。ところが、すぐ下の「東北へ旅に出かけて復興を応援しよう！」という勝手連キャンペーンと写真が一致しないので、何か違和感がありました。今月号の表紙写真は2008年にお訪ねした東鳴子温泉の旅館大沼さんご自慢の露天風呂です。2009年秋にも家族でお世話になっています。

東日本大震災の直接の被害は免れた岩手・宮城・福島各県の内陸部も、東北日本海側と同様に、旅行者が激減しているそうです。

能登半島地震の時もそうでしたが、観光が広域化している今日、被災地のみならずその周辺地域も一気に旅行者が減ってしまうという経済的連鎖被害が頻発するようになっていきます。

この人的災害ともいえる状況を打破する方策は、主に2点。一つはお迎えする側が如何に平時からお客様との絆を深く結んでいるか。(エンゲージド・マーケティングと言います)もう一つは、客側が如何に冷静に判断して平時と同様の消費行動をとるか、です。

本号を発行したその脚で、合宿研修のコーディネータとして被災後2度目の宮城入りを行います。本心としては日本海側・内陸部にも脚を伸ばしたいのですが...

さて、その影響で本来のルールですと表紙を飾るはずだった前年同月の訪問先...。熊本県人吉市。こちら合宿研修の引率でお世話になりましたが、とても深く濃い夜なべ談義を繰り広げることができました。素朴ながら実に味わい深いご主人と奥様のおもてなしが、今でも懐かしく、失礼とは存じますが、裏表紙のレイアウトを変更して、一こまを掲載させて頂きました。お庭で丹精込めて育てられた花々をこうして、素敵に生けてお迎えさせて頂きました。なんともありがたいご馳走です。(は)



熊本県人吉市農家民宿  
古時香(ことか)さんにて  
by hama

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。

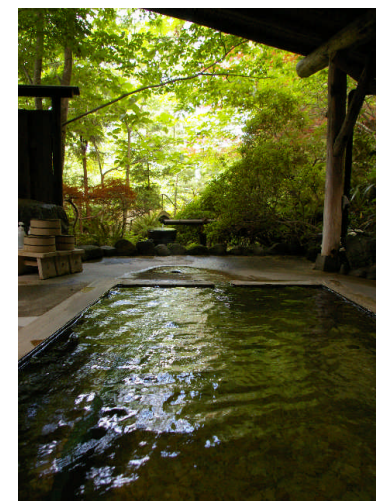


2011/09  
(株)アスリック  
<http://www.neting.or.jp/usric>  
〒920-1167  
石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217  
Fax 076-233-7375  
Email [usric@neting.or.jp](mailto:usric@neting.or.jp)

2011/09  
(株)アスリック  
<http://www.neting.or.jp/usric>

## 長 月



宮城県東鳴子温泉  
旅館大沼さんにて  
by hama

負けるな東北!  
忘れるな日本!  
東北へ旅に出かけて  
復興を応援しよう!

# 寄稿『へたくそデザイナーを

地域で育てよう！』 迫田 司

四万十川の中流域、西土佐に移り住んで十九年になった。細々とデザイン事務所をやってきたが、この夏、株式会社になった。

そういうとみんなは、「こんな田舎でよく頑張ったねえ」といいながら、「儲かって、結構なことですね」と書かれた顔でニヤニヤして私を見る。もちろん、一文無しで移住した時代よりはいくらか裕福にはなったが、起業したのはそんな理由ではない。

私は「地デザイナー」と名乗って活動を続けている。地デザイナーとは、自分の住んでいる地域にどっぷりと浸かって生活しながら、その毎日から気づかされる「ユタカサ」を生活者の視点で見出し、収集し、編集し、自分の住んでいる場所を、気持ちよく、大いに自慢し、発信することができると想定している。ずっと住んでいる人には「あたりまえ」すぎて見えなくなっているものを、これはスゴイことなのですよと、語りかけながら、勇気づけながら、そのかして、その気にさせるシゴトをしたい



【プロフィール】  
(ささこだつかさ)  
サコダデザイン株式会社 代表取締役社長  
一九九三年に四万十川に移住。  
四万十川の商品企画・デザインを手がける。

のだ。  
でも、田舎の行政は、予算があればすぐ東京の有名なデザイナーに頼みたがる。何百万円も出して、文句も言えない先生に頼みたがる。気に入るうが、入るまいが、ありがとございます！と喜んでこれで商品が売れるのだ！と息巻いている。しかし、それって自分たちが本当に欲しいものなのか？

私は、へたくそその時代からこの地域の商店の方々に使ってもらった。時間はかかったが、おかげで、この地域の魅力を誰よりも楽しく伝えられるようになった。

地元のデザインは地元のデザイナーがやる方がいいに決まっている。誰よりも愛している感が、そのへたくそから滲むデザイン。その土地から生えてきたようなデザイン。そんなオリジナルの津々浦々デザインが、よきによきしている田舎はともユタカに見えると思う。

## 濱のつばやき 『ウォンテッド』

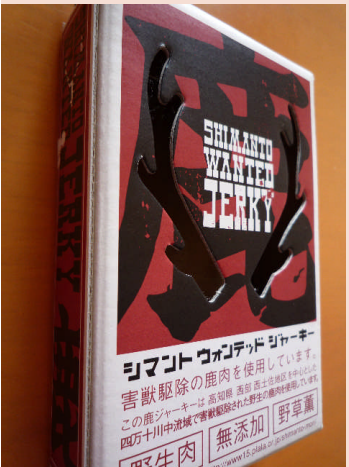
三年前の秋のことである。

今月ご寄稿をお願いした迫田氏のアトリエにお邪魔した。木賃と自称されるだけあって、野趣溢れる小屋といった風情。ここから数々のヒット商品が産み出されてきたのかと、興味津々の目に、にやりとして小箱を渡された。一見古めかしい西部開拓時代のデザイン。シマントウォンテッドジャーキーとある。

なんでも増えすぎて山を荒らし、害獣化した鹿を駆除し、その肉をビーフジャーキーならぬ鹿ジャーキーにしたという。さて、この瞬間から制作者とこちらとの試し合いのゴングとなる。「害獣の駆除だからウォンテッド」程度では、あつ「カン」と終了の鐘が鳴ってしまふ。一体どれくらいのデザイン要素が隠されているのか…

ヒントは、箱上部の蓋のベロにあつた。普段、こんな処には何も書かない。あつても、「当り／はずれ」

「当り／はずれ」くらいのものだ。ところがそこには「ジャーキーじゃきい」とある。土佐の方言を知らない者には、



このヒントでもお手上げとなる。  
高知では、「何々だから」を「何々じゃきい」という。つまり、「これはジャーキーである＝ジャーキーじゃきい」となるわけだ。案の定、裏には「WANTEDの鹿じゃきい」と大書されている。こうなると、箱に書き込まれている小さな文字の「物語」も読みたくなるというのが人情だ。  
迫田氏恐るべし…。この時、氏が如何に「真剣に遊んでいるか」を垣間見たのだった。モノ余りの今日、「パツケー」ジのデザイン一つで売れる／売れないが決まる」と言っても過言ではない。  
黙して語らせるには、知恵が要る。  
各地で農工商連携・六次化が進められているが故に、これほどその土地を愛して格闘しつつ磨き上げができる人材が求められている時代はなかるつ。  
氏には師と同様、著書が在る。「四万十日用百貨店」地デザイナーの底力に触れる良書だ。氏の手に掛かった製品・生産者は幸せだと思つのである。





## 『 迷惑メール対策 』

(株)アスリック プロジェクト推進部 五十嵐 政信

迷惑メールの量が尋常でない。1日に200本以上来る。PCの場合はアウトLOOKの迷惑メールフィルターを使えばいいのだが、問題はiPhoneとiPad。SMS/MMSメール、つまり通常の携帯メールにはスパム対策がついているのだが、スマホで使えるPCメールにはまともなスパム対策がない。この結果うんざりするような迷惑メールがiPhoneとiPadに届くようになったしまった。

そもそも何でこんなことになったのか？ 僕はメルアドを4つ持っているのだが、大量の迷惑メールが届いているのはこの中の1つだけ。届くメールは出会い系、競馬、投資、英会話など様々だ。

どうやらそれぞれのメールに書いてある、「退会手続き」とやつに弁えたのがそもそも良くなかったようだ。入会した覚えもないのに、退会もないのだが。まあ、馬鹿正直に退会手続きをしたがために、別の出会い系だの投資話だのの迷惑千万なメールが、それこそ山のように届きだした。これが7月下旬の事。これ以前も1日に20本程度の迷惑メールは来ていた。まあ20本程度なら何とかなのだが、流石に1日に200本以上となると、メールそのものが使い物にならなくなる。

みなさん、迷惑メールにまともに対応してはいけません。とにかく基本は、無視、削除。退会手続きなどをすると、敵の思う壺にはまりこんでしまいますぞ！！

とはいえ、僕の場合は後の祭り状態。それでネットを調べて、どうすればいいのか考えたのだが、どうやらGmailを活用するのがいいということが分かった。

つまり、汚れちゃったメルアドに届くメールを、一旦Gmailに転送する。そしてGmailの強力な迷惑メールフィルターで悪い奴らを一扫する。然る後まともなメールだけを、改めて汚れちゃったメルアドに転送する。そうすると、あ～ら不思議。汚れちゃったメルアドが、清く正しく美しく復活いたします。この設定は30分もあれば誰でも出来きるとても簡単な作業。もっと早くからやればよかった。

Gmailの迷惑メールフィルターは強力で、何も設定しなくても悪い奴らを勝手にシャットアウトしてくれる。どうやら、世の中の人々が、「ダンナ、こやつはスパムでっせ、懲らしめてやっておくんせえ」と報告すると、全世界共有で対応しているようだ。

でも中にはまともなメールも何本かシャットアウトしてしまうので、設定した後で迷惑メールのトレイを開いて、迷惑メールでないものをチェックする必要がある。

と言う訳で、1時間に1回メールをチェックして、スパムを削除するという非生産的なルーチンワークから解放されたという次第です。めでたし、めでたし。

## 『 若き起業家達の情熱 』

株式会社GARBAGE代表 川島 嘉浩

今月は前回に続き、私の友人で新たな価値づくりに向けて情熱を注いでいる人物についてご紹介したいと思います。

彼の名はN氏で、私が約8年間在籍をしていたカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社と一緒に仕事をしてきたメンバーです。当時私はTポイントサービスの立ち上げメンバーとして、主にデザインや宣伝・販促の責任者として従事しておりN氏は、Tカード会員向けサイトの構築メンバーとして日々共に仕事をした仲間であります。Tポイントアライアンスやエンドユーザー、そして社会的側面において何が「新たな価値なのか？」について、会議室や居酒屋で喧々諤々の議論をしたものです。時には、酒の勢いもあって周囲の人間を巻き込んでの口論というより喧嘩になったこともありました。それほど、密度の濃い時間を共有してきた仲間でもあります。

そんな彼も2年前に独立をし、現在は企業のECサイト構築のコンサルタントとして活躍をしております。そして現在立ち上げを計画している事業が「国内に点在する高品質プロダクトの流通構造改革」というコンセプトのもと目利き型のお取り寄せサイト事業の立ち上げに奔走しております。この原稿がリリースされるタイミングでは、すでに全国各地に営業行脚に出かけていることかと。

彼もこの前ご紹介したA氏と同様「日本(人)が持つ資源の再発見」に軸足を置き、生産地と消費地を結ぶ流通ネットワークの構築という点だけでなく、“食”を通して価値観やライフスタイルを見つめ直し、人材の育成・交流を通じた絆づくりを掲げています。例えば、彼の言葉を借りれば

- ・幸せな食卓は家族や友人との幸せをつくりだす
- ・その土地土地の自然と恵みに感謝をするだけでなく、適切な対価を支払う
- ・モノづくりを通して喜びを与える側の素晴らしさと生きがいを知る

ということです。具体的なビジネスモデルについては、まだオープンにできないのですが、従来のネットのモールや食の通販サイトとは、単に機能性や利便性という点でなく、目指すビジョンの点において大きな相違があります。

彼がこのようなビジネスをはじめたきっかけは彼の生まれ育った環境にあります。彼の実家は東京の下町にある縫製工場でした。1980年以降のアジア諸国への生産現場シフトによって経営環境は非常に厳しく、大手の下請け仕事に依存していたこともあり、高い技術を持つ多くの職人さんを解雇せねばならないこともあったようです。いい技術を持ち、ニーズがありながらも、零細企業であるがゆえに、大手企業の経営方針に影響を受けてしまう従来の日本型ビジネス構造に対して若いころから憤りを感じていたそうです。そして、食という最も重要なモノづくりから人が離れていく現状を打破すべく、「モノづくりが最も尊敬されるべき仕事」というポジションの獲得に向けて、本事業を立ち上げました。

現在私の会社も本事業に出資をし、共に日本の食の生産業を盛り上げるべく、パートナーシップを組むことにしました。まだまだ、居酒屋での激論や取っ組み合いは続きそうです。

## 『富士の国から ~大魔神のたび~ 』

- ポートランドの旅その2 - 静岡県職員 溝口 久

7月7日初日の夜は松本大地さんの案内で、アートな夜を過ごし、ホテルに帰った。多少の時差ぼけもあり、すぐに寝入ったのだがかなり早く目覚めた。

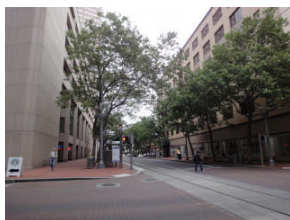
翌朝、街中を迷子にならない程度に歩いてみた。少し肌寒い。街路樹は三階程度の高さまで伸び、連続した木陰をつくり、葉の間を通り頬をなでる風は爽やかだ。建物は低層部分と高層部分ではデザインが異なる。低層部は、石を使った重厚な壁に大きく開口部を開け、商業利用がされている。どうやら低層部は商業施設にすることがルール化されているようだ。

ポートランド的都市デザインって？1階にカフェ、ショップ、ギャラリーが連続しており、歩くと楽しい。新旧建築が混在し、老若男女にやさしい多様な空間を持つ。中層ビルが主体となり、適度なスケール感を維持。ローカル主義、インディペンデント主義といった気質を共有する。歩いているとそれらのことがよくわかる。

この日の朝食は郊外にある「ポブズレッドミル」だ。1978年創業したポブズレッドミルナチエラルフーズは、石臼挽き全粒穀物を専門としている。300以上の健康にいい全粒粉や穀類、ベーキング用ミックスの製粉を行っている。午前6時から朝食がとれる。車に乗ってわざわざ朝食をしに行くことは、いまだかつて経験したことは無かった。駐車場にはかなりの台数の車が停まっている。郊外の豊富な緑に囲まれ、自家製の有機全粒粉のパンケーキを頬張れば、いやがうえにも美味しく感じる。

さて、次は建築を専門とする私にとってはお待ちかねの視察先だ。ポートランドの建築と言えば、1982年完成のマイケル・グレイヴス設計の市庁舎が有名だ。ポストモダン建築という言葉で機能優先、simple is bestを旨とした近代建築のそっけなさに飽きてきていた頃に、彗星のごとく現れた建築だった。特徴的なブロック様のデザインと正方形の窓が特徴的だ。ルネッサンス、バロックといった古典的西洋建築様式に見られる部位をアレンジして組み込んでいったのが、ポストモダン建築だった。その後、日本に飛び火し、時あたかもバブルの頃、磯崎新、隈研吾らのデザインに影響を及ぼしたと思う。

さて、視察先に話を戻そう。めざすは2009年完成の「TWELVE WEST



全国チェーンではなく



T」ビル。地上23階、地下5階建、延床5万㎡の複合ビル。地下は駐車場、1階リテール、2～5階までZGF設計事務所、その上17階分は賃貸マンション（273室）。最上階の屋上庭園やアメニティールームは居住者に開放。風力発電も付いていてビルの目印にもなっている。市やディベロッパーは、寂れた感じのウェストエンド地区の活性化を目論んでいて、当ビルはその目玉として期待されている。

このビルの何が凄かって？ポートランドは2002年に持続可能な環境共生ビル評価基準「LEED (leadership in energy and environmental design)」を導入し、ビルをランク付けすることで環境配慮のビルの建築を促している。

そのLEEDの最高ランクであるプラチナを取得したのが「TWELVE WEST」ビルだ。LEEDは敷地、水利用、エネルギー利用、材料の選定そして室内環境の5項目が判断基準になっている。消費エネルギー“ゼロ”を目指した設計。窓ガラスは全てコーティングした複層ガラス、大きな窓からは太陽光と景色を、照明は感知器が備わり、昼は太陽光強度に反応して光度を自動調整、夜は人気が無ければ自動消灯。エネルギー効率の高い設備機器の使用、雨水はトイレに再利用。暑い日には天井には冷水による冷却空調装置（日本では目にしたことが無い）が作動し、快適なオフィス環境が確保されている。屋上には122㎡の太陽光発電と4基の風力発電が廻る。これで総工費96億円。賃貸270室×12ヶ月×15万円/月=4.86億円とすれば経費を無視すれば年利5%かぁ。設計はZGF設計事務所、渡辺義之氏が玄関周りのデザインを担当。確かに和の雰囲気を感じる。氏は日本で金融関係にお勤めの後、アメリカにわたり建築を学びZGFで働いている。

氏曰く、「ポートランドのような住・職・学が一体となった都市部において、建築家の真の役割とは、単に奇抜で目に付くビル・デザインをする事ではない。セキュリティを考慮しつつ道に対していかに開き、温かさリズムあるビル・デザインを提案し、同時に楽しく美しい道空間をつくる事に尽きる。TWELVE WESTでは、木、石、ステンレスを玄関周りに使って温かくも新しいデザインとした。今、玄関周りに人が絶えない事から、その試みは成功しているとわかる」。

小生は学生のときに、「上下に開口のある壁内中空層中の気流について 気流速及び温度分布の計算について」を修士論文にした。外壁内部の中空層内の空気が浮力による換気が生じることで日射熱が建物内部に流入することを防ぐことを実験値をもとに数値解析した研究だった。ネットで<http://ci.nii.ac.jp/naid/110007567664>で検索してくだされば当時の手書きの論文の概要が出る。

何を言いたいかって？ガラスばかりじゃなくて壁も複層にして夏場は壁体内を換気、冬場は閉じれば高断熱となる。結果、重装備な環境配慮のビルになるということ。建設費も重くなるけど、、、。

